令和３年度第1回大阪府アレルギー疾患対策連絡会議（概要）

１　日時　　令和４年１月２０日（木）１９時～

２　場所　　大阪赤十字会館８階会議室／Ｗｅｂ会議

３　議事

（１）令和元年度以降のアレルギー疾患対策事業について

（２）医療提供体制整備について～アレルギー疾患医療連携協力病院の設置～

（３）その他

今回は委員改選後初の会議開催のため、議事に入る前に会長の選出を実施。出席委員から推薦のあった東田有智委員を全会一致で選任。

４　委員からの意見要旨

（１）令和元年度以降のアレルギー疾患対策事業について【資料１】

【意見要旨】

○アレルギー疾患対策を進める上での課題を達成するためには資金が必要、府では今後どういう風に予算を確保していただけるのか。

○現在各医療機関はボランティアで手間暇かけて課題に対して取り組んでおり、資金援助がないと進みにくいのではと思う。

○課題に対する目標について、何をもって、目標やアウトカムが達成されたかという、評価指標のようなものが必要。

○やったことに対する評価が見えてこないところがある。目標の一つである、学校・幼稚園等の職員の質の向上について、食物アレルギーの管理表一つにしてもものすごく困っているところ。努力した部分がどう評価されて、どういうふうにみんなに伝わって、というところがもう少し明確になればよいのでは。

○課題、施策に対する評価は必要。

（２）医療提供体制整備について～アレルギー疾患医療連携協力病院の設置～【資料２】

【意見要旨】

○専門医療機関との連携が重要であると考えており、協力病院の選定により専門医療機関のネットワークが拡がっていくのは良いことだと感じる。

○現行の４つの拠点病院に加えていくつか紹介先になる病院が必要だと思うので良いことだと思う。

○公募とのことだが、自ら手をあげてくれるところはないと思われるので、結局、ある程度お願いすることになると思う。何かインセンティブやメリットがないと、いつまでもボランティアに頼っていると物事は進まないと思う。

○拠点病院だけでは地域から遠い。協力病院が近くにあれば良いと思うので、協力病院を選定する案に賛成である。

○拠点病院同士で同じ協力病院を候補にあげることもあり得るがそれは構わないのか。

⇒「大阪市内であればそれなりのところ（病院）があると思われるが、大和川以南は病院の数自体が少なく、アレルギーに関しては、岸和田市民病院、りんくう総合医療センター、堺市総合などしかないので、重複することは構わないのではないか。」

○眼科はほとんど専門医がいないので、病院だけではまわらない。診療所からも選定が必要

○想定選定数の20は各科20ずつということではなく、全体で20病院になるということか。

⇒「各科20ずつは選定できない。全体で20ということ。」

○診療所にも協力を頂かないといけないが、ひとつの診療所クリニックに過剰に負担がかかってもいけない。

○眼科は診療所でも構わないという方針で声をかけてもおそらく手はあがってこないので、伝手を通じてお願いをするということになると思う。

アレルギーの専門医はとっていないけれど、アレルギーを診る、という眼科の先生をご紹介頂いて、お願いするのがよいのでは。

（３）その他

事務局から「香りへの配慮」について、別に資料配布の上、各施設における配布等に関して説明

【意見要旨】

委員の発言なし。